

平成 27 年度 事業方針及び計画

1. 事業運営方針

(1) 平成27事業年度においては、新たに2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて大阪陸上競技協会登録者から代表選手を輩出できるよう新事業を推進するなど国際的な競技力の向上を支援していく。

(2) 第5回大阪マラソン大会、第83回大阪陸上競技選手権大会などを主催し、大阪の競技基盤を強化していくとともに国際的な普及活動を促進していく。また、第2回木南道孝記念陸上競技大会を開催し全国的な競技力の向上の一翼を担う。

(3) 第35回大阪国際女子マラソン大会などの主管、内外主要競技会への役員・選手の派遣、各種陸上競技会に対する審判員派遣など、陸上競技の普及と発展を図っていく。

(4) 公益財団法人日本陸上競技連盟、近畿陸上競技協会、公益財団法人大阪体育協会等の関係機関に対して役員を送るとともに、大阪高体連陸上競技専門部などの各協力団体と密接に連携し、大会運営技能・審判技術向上、陸上競技の普及、選手の育成を図る。

2. 事業計画

(1) 選手強化育成事業等

国内はもとより、国際的に活躍できる選手を育成するため、競技力の向上を図る取り組みを推進する。東京オリンピックに向けた選手強化のため関係機関・諸団体の協力のもと「大阪オリンピック育成プログラム」を発足させる。また、木南道孝記念陸上競技大会の国際化のための検討を進める。

ジュニアの育成を図るためチャイニーズ台北との交流など国際的な競技力向上に資する交流活動を促進する。

陸上競技の普及、選手の強化を図るための競技会等を実施するものとし、天皇賜盃第83回日本学生陸上競技対校選手権大会の招致をはじめ本事業年度に実施する競技会等は、次のとおりとする。

平成27年度 大阪陸上競技協会が関係する競技会(別紙)

平成27年度 競技会 日程・行事予定(別紙)

(2) 情報化の推進

協会の情報発信力の強化を図るとともに、競技会における先端技術の活用等による情報化、機械化を推進していく。

(3) 普及育成事業

世界に通用する競技者を発掘、育成していくため、日本陸連及び各協力団体

との連携を深め、選手の育成、強化や指導者の育成に取り組んでいく。